

七 舞へくかたつむり

舞へくかたつむり

・ 梁塵秘抄

舞へくかたつむり、舞はぬものならば、うまの子やうしの子にくゑさせてむ、踏みわらせてむ、まことに美しく舞うたらば、花の園まで遊ばせむ。

まつの木かげに立ちよりて、岩もる水をむすぶまに、扇の風も忘れられて、夏なき年とぞ思ひぬる。

池の涼しきみぎには、夏のかげこそなかりけれ、こだかきまつを吹く風の、声も秋とぞ聞えぬる。

遊びをせむとや生まれけむ、たはぶれせむとや生まれけむ、遊ぶ子どもの声聞けば、わが身さへこそゆるがるれ。